

小牧連携だより



新病院完成イメージ図

◆連携ニュース◆

NICUのご案内	P2
患者支援センターの設置について	P3

◆新病院建設◆

躯体工事と免震装置	P4
-----------------	----

◆認定看護師紹介◆

がん化学療法看護 認定看護師	P5
----------------------	----

◆地域連携トピックス◆

地域連携室の取り組み	P6
------------------	----

【 地域連携室 業務内容 】

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 地域の医療機関との連携に関すること | 6. 訪問看護に関すること |
| 2. 退院支援に関すること | 7. 医療情報の提供(カルテ開示)に関すること |
| 3. 医療サービスの向上に関すること | 8. その他(地域連携関連業務全般) |
| 4. がん相談支援に関すること | |
| 5. 医療福祉相談に関すること | |

【 受付時間 】

平日 午前8時30分～午後7時
土曜 午前9時～午後0時

電話 0568-76-1434
FAX 0568-74-4516



NICUのご案内

当院は地域周産期母子医療センターとして周産期医療に携わっております。現在、小児科は周産期・新生児医学会周産期医（新生児）1人を含む7人体制で、新生児医療に24時間対応しています。

ハイリスク妊婦及びNICU管理が必要な新生児が増えている状況の中、積極的な母体搬送・新生児搬送の受け入れ、適切な治療と看護を行ってまいります。

<NICUで対応している新生児疾患>

- ・ 早産児、低出生体重児（在胎28週0日未満の場合は状況に応じて）
- ・ 新生児仮死 ※脳低体温療法を行う場合は、高次施設へ搬送。
- ・ 新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、気胸、肺出血、その他呼吸障害
- ・ 新生児遷延性肺高血圧症 ※一酸化窒素吸入療法も積極的に行っております。
- ・ 新生児痙攣 ※振幅統合型脳波（aEEG）も24時間検査可能です。
- ・ 無呼吸発作 ・ 感染症 ・ 消化管出血 ・ 低血糖
- ・ 新生児黄疸 ・ 初期嘔吐 ・ 奇形症候群など

※新生児外科的疾患、緊急性のある心奇形の児は対応不可となります。

※2019年5月開院予定の新病院では、NICU3床、GCU6床を設置する予定です。

<新生児受け入れの流れ>

- ①平日の午前8時30分から午後5時の間は小児科の本田まで、その他の時間帯や曜日は小児科当直医までご連絡ください。（代表：0568-76-4131）
- ②症状をお伺いし、受け入れ可否の判断をします。
- ③当院で救急車を手配し、医師が同乗のうえ、依頼元医療機関に急行します。
- ④依頼元医療機関では、救急車到着までの間、可能な範囲で新生児診療情報提供書のご記入をお願いします。（分娩記録の写しでも可）
※新生児診療情報提供書は病院HPの地域連携室のページからダウンロード可能です。
- ⑤新生児への処置を行いながら市民病院へ搬送します。



患者支援センターの設置について

新病院開院に先駆けて、地域連携室は**患者支援センター**に生まれ変わります。患者窓口を集約し、病院利用者の利便性の向上を図ります。

患者支援センターの設置場所につきましては、現行の地域連携室と変更はありません。なお、新病院では専用ブースを設ける予定です。

現行

地域連携室



患者支援センター

2018年4月以降

地域医療・医療相談室

入退院支援室

がん相談支援センター

患者支援センターの役割

地域連携・医療相談室

- ・ 紹介予約
紹介患者さんの予約受付を行います。紹介患者さんの回答書の管理などを行います。
- ・ 予約センター
予約患者さんの予約変更を行います。
- ・ 勉強会の開催
尾張臨床懇話会、緩和ケア系統講義、認定看護師・NSTによる勉強会などをご案内します。
- ・ 各種医療相談
患者さんからの各種相談、ご意見をお受けします。

入退院支援室

- ・ 入院支援
入院前から患者さんの情報を収集し、患者さんが退院後を見据えて安全・安心な医療を受けられるようサポートします。
- ・ 退院支援
入院患者さんが円滑に在宅療養に移行できるよう、関係機関との転院・退院調整を行います。
- ・ 在宅支援
退院後訪問指導など、地域の在宅医療を担う事業所をサポートします。

がん相談支援センター

- ・ がん地域連携パスの推進
五大がんの連携パスの推進により、患者さんが安心して質の高い医療を受けられるようにしています。
- ・ がん相談
がんに関する相談、就労相談などをお受けしています。必要に応じて専門職が対応します。

躯体工事と免震装置

2019年5月の新病院開院に向けて建設工事を推進中です。現在、躯体工事が着々と進められております。

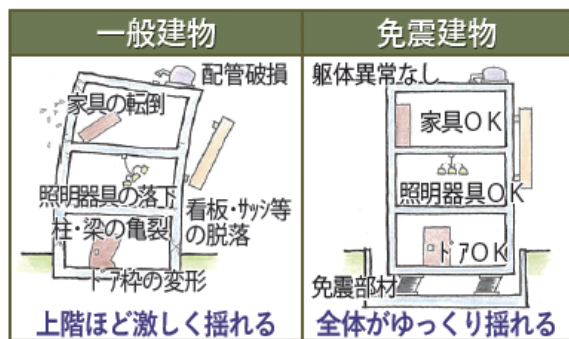
◇建築工事

外来や病棟が入る新病院棟では、鉄骨工事が進行中で、3月からは内外装仕上げ工事を開始しました。

医局、講堂等が入るサービス棟は、昨年末に基礎躯体工事が完了しています。現在、地上躯体工事を進めています。



(1月時点の航空写真)



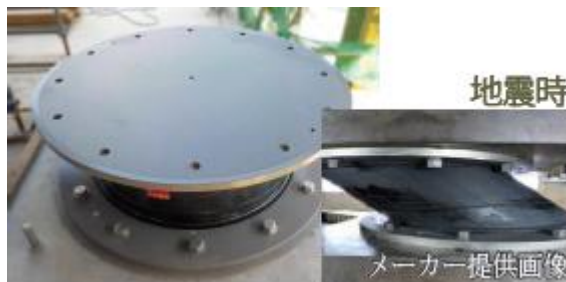
◇「免震構造」の採用

免震構造とは、地盤と建物間に地震の揺れを吸収する免震装置を設置することで、建物への地震力の伝達を低減する構造のことです。これにより、病院内の資器材等の転倒が抑えられ、安全性が向上します。

◇新病院に設置される免震装置

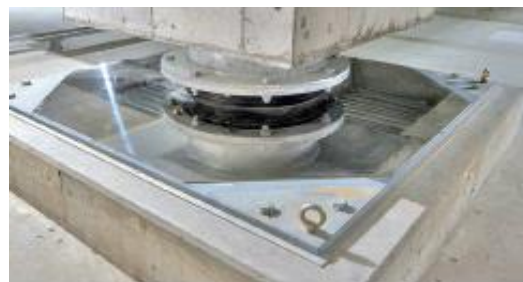
・積層ゴム支承

ゴムと鋼板を重ね合わせ、建物荷重を支持する部材です。地震時は柔らかく変形して揺れを吸収・低減します。



・すべり支承

特殊加工されたステンレス板の上を上部装置が揺れることで、地震の揺れを吸収します。





溝口 真巨



高木 真由美

がん化学療法看護 認定看護師

2006年度より、がん対策基本法が成立され、国としてがん対策の充実を図っています。その中で、当院は2005年に“地域がん診療連携拠点病院”に指定され、地域のがん医療の均てん化促進を図っています。

がん治療は、手術・放射線・薬物療法と大きく分けて3つあり、それぞれの治療が進歩しています。特に、薬物療法においては、化学療法や分子標的薬に加え、免疫チェックポイント阻害薬も加わり、個別化治療や多剤併用療法など複雑化しています。一方、吐き気などの副作用を抑える薬剤や副作用の比較的少ない薬剤などの開発も進み、ほとんどの患者さんが、外来で治療を受けられるだけでなく、働きながら抗がん剤治療を受けられる患者さんも増えています。私たち医療者は「がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築」を目指しています。

がん化学療法看護認定看護師は、現在、全国で1,514人が資格認定を受け各施設に在籍しています。抗がん剤投与の安全な投与管理だけでなく、がん薬物療法を受ける患者さんやご家族の方の心理的支援や副作用などの症状緩和にも努めています。また、看護師への指導や相談を行うことで、がん薬物療法における看護の質の向上を目指しています。

新しい薬を導入する際には、投与が安全に行われるために、勉強会を開催し、管理方法などを薬剤師や担当医師と検討しています。また、内服抗がん剤も増えてきており、通院中の副作用管理などにも力を入れています。そのため、患者さんが副作用や日常生活において困ったことやわからないことを直接相談するための窓口を設置するなどの支援も行っています。

抗がん剤治療を安全に、安心して、できるだけ安楽に受けただけ様にお手伝いすることが、私たちの役割です。治療が必要と言われ、不安に思っている方や、副作用に関することでお困りの患者さんやご家族がいらっしゃる場合は、がん相談支援センターにご案内ください。また、地域の医療機関の方々に対し、抗がん剤についてや副作用など症状に対するケアの勉強会もお受けしていますので、まずはどんな内容でも、お気軽にご相談いただければと思います。

0568-76-4131(代表) がん相談支援センター(内線2915)

当院所属の認定看護師 (2018年3月1日時点)

当院では、日本看護協会が定める認定看護師21分野のうち12分野で18人が在籍しています。その内訳は次のとおりです。

- ・緩和ケア1人
- ・がん化学療法看護2人
- ・摂食・嚥下障害看護1人
- ・慢性呼吸器疾患看護1人
- ・感染管理2人
- ・がん性疼痛看護3人
- ・新生児集中ケア1人
- ・集中ケア1人
- ・皮膚・排泄ケア3人
- ・救急看護1人
- ・脳卒中リハビリテーション看護1人
- ・認知症看護1人

～地域連携室の取り組み～

11月30日(木)

第212回尾張臨床懇話会

演題:地域医療における感染予防 ～拡大させないための感染対策～

講師:丑山 初美 (感染管理認定看護師)

参加人数:14人

医療関連感染について、標準予防策の中でも特に重要な手指衛生、個人防護具の使用、環境整備について講義を行いました。

また、蛍光塗料入りの模擬嘔吐物や個人防護具を用いた嘔吐物処理を実践していただき、部屋を暗転させて拭き取り具合を確認しました。

1月25日(木)

第10回小牧市民病院地域医療支援委員会

第10回地域医療意見交換会

地域医療支援委員会では、「新病院開院における診療枠調整」「年末年始の対応状況」を報告しました。

地域医療意見交換会では、既往歴や現病歴、処方などの情報共有の在り方について意見を交わしました。

2月22日(木)

第213回尾張臨床懇話会

演題:スキンケア・フットケア ～下肢病変を抱える方への多職種でのかかわり方～

講師:小副川 知子 (皮膚・排泄ケア認定看護師)

参加人数: 8人

皮膚乾燥のケア方法、下肢病変の発生要因、患者への症状等の聞き取り方などについて講義を行いました。

今後実施する勉強会等のご案内

3月22日(木) 第214回尾張臨床懇話会

時間:午後2時～3時30分

演題:「患者さんを動かす方法」

講師:落合 啓史(糖尿病内分泌内科)